

## うし の まつ 牛 ノ 松 遺 跡

### 調査の経過

幡豆山地の頂部をなす茶白山（標高290m）から北に伸びる低丘陵は、額田郡幸田町大字須美地内で緩やかな勾配をなして台地へと続き、さらに須美川に至る。牛ノ松遺跡はこの台地上に立地する遺跡で、地籍は大字須美字牛ノ松である。

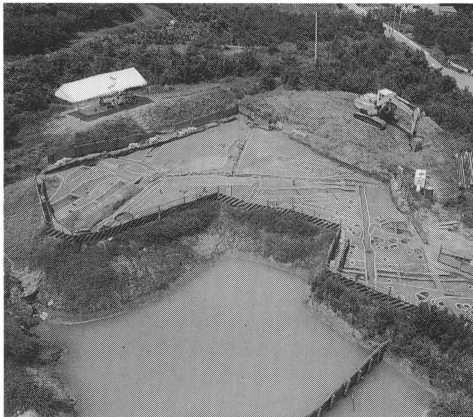
今回の調査は、国道23号線バイパス建設に伴う事前調査として、500㎡を平成3年6月～8月にかけて実施した。この地は、平成2年2月にも、今回の調査区の東に隣接する場所で調査が行われている。

### 調査の概要

今回の調査で検出した遺構は、近世～現代の溝数条、中世の溝数条と掘立柱建物1棟、井戸状遺構1基、多数の土坑である。遺構の分布を見ると、SD18を境にしてそれ以西には見られない。この溝は、屋敷を囲む溝であった可能性も考えられる。

出土遺物の主なものは、灰釉系陶器（碗・小皿）が大部分であり、土師器（皿）、常滑（甕）、青磁、それに若干の近世陶磁が混じる。平成2年の調査では、これらのものに加えてフイゴの羽口、鉄滓、「上」と書かれた墨書土器が見られる。これらの出土遺物の諸特徴から考えて、この遺跡は鎌倉時代後半期を中心とする集落址と考えられる。

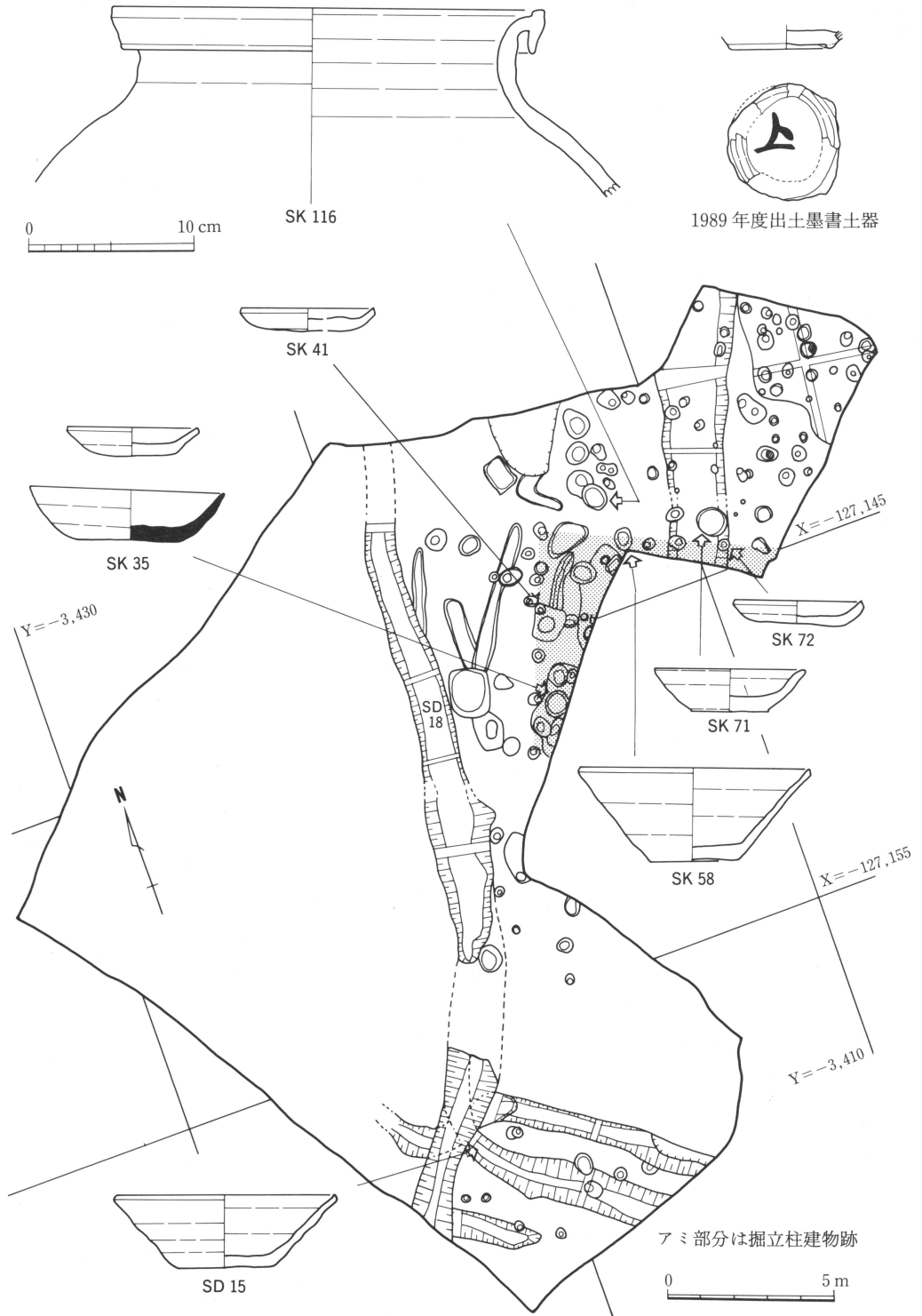
鎌倉時代の初めより、この地は「蘇美御厨」として伊勢神宮領になっており（『伊勢大神宮神領注文』）、権門勢家の地方進出を具体的に追求する上で今回の調査結果は意義を有するものである。より広範囲の遺跡調査及び結果が待たれる。 （大橋正明）



調査区全景



井戸状遺構（S K71）



第1図 中世遺構図及び主な出土遺物